

MH 処理が貯蔵タバコ害虫に及ぼす影響

河野昌弘*・今村博美*・岡野秋盛*

KONO, M., IMAMURA, H. and OKANO A.
Effect of Leaf-Treatments with MH-30 on Insects
attacking Stored Tobacco.

MHがタバコのエキ芽抑制剤として広く産地に普及されるようになって、労力の低減や質の向上等多くの利点があげられている。しかし最近になつて貯蔵葉たばこの虫害相が変りつつある情報を手に入れた。早速この問題をとりあげて基礎実験を行い、2, 3の結果を得たので概況を報告する。

実際例 心止直後のタバコに MH-30 2.0%, 0.5% (何れも常法に従い1株当り 20cc 全面散布) 完全摘芽、および7日毎に摘芽、の4区を設けてそれぞれ処理し、乾燥後同一貯蔵箱に入れ貯蔵期間21日目に各区2束(60枚)づつ取り出して被害状況を、付着する虫糞の重さであらわした。結果は第1表の通りである。

第 1 表

区 別	虫 糞 量 (gm)				
	I	II	III	IV	指数
MH2.0%全面散布	2.7	1.2	1.3	2.4	100
MH0.5%全面散布	0.1	0.1	0.3	0.2	11
完全摘芽	0.2	0.1	0.1	0.1	5
7日毎摘芽	0.1	0.1	0.1	0.1	5

備考。調査月日：9月30日、葉分：本葉、供試品種：プライト・エロー。

供試葉たばこの内容成分の分析結果は第2表の通りである。

1~2表を総合すると害虫は全糖及び全炭水化物の

第 2 表

区 別	全 糖	全 炭 水 化 物	ニコチン
MH 2.0% 20cc 全面散布	29.7	40.6	2.1
MH 0.5% 20cc 全面散布	26.6	31.7	3.9
完全摘芽	24.1	27.3	4.6
7日毎摘芽	20.6	24.4	4.8

備考。公定分析法による。対乾物%。

増加、並びにニコチンの減少を来した MH 処理葉を選択加害する傾向が認められた。

代表的な貯蔵害虫であるチャマダラメイガ *Ephesia elutella* Hübner, とタバコシバンムシ *Lasioderma sericorne* Fabricius, を使つて、次のような小実験を行った。

試験1：葉たばこを処理別に直径3cmの円に切抜き、それぞれ16枚づつ重ねて結束し、おのおの3束づつ総計12束を腰高シャレーの内周にならべ、20頭のチャマダラメイガの4~5令幼虫を放飼した。結果は第3表の通りである。

本試験でも MH 処理葉が選択的被害を受けた。棲息虫数はこれと逆の傾向を示しているが、この原因については今後検討する。

試験2 実験方法は供試葉をそれぞれ24枚1束とし、供試虫をタバコシバンムシ60頭にしたほかは試

第 3 表

区 別	I		II		III		IV		指 数	
	虫数	加害面積	虫数	加害面積	虫数	加害面積	虫数	加害面積	虫数	加害面積
MH 2.0% 20cc 全面散布	1	mm ²	0	mm ²	2	mm ²	2	mm ²	22	100
MH 0.5% 20cc 全面散布	1	379.0	3	29.5	1	466.0	5	132.5	42	23
完全摘芽	5	89.0	4	298.0	8	31.5	6	30.0	97	10
7日毎摘芽	6	35.0	9	216.5	5	0.5	4	0.5	100	6

備考。調査月日：10月25日、飼育期間：10日、27~29°C 定温器(遮光)内飼育、1%水準有意。

*日本専賣公社鹿児島たばこ試験場

験1と同様、結果は第4表の通りである。

タバコシバムシ幼虫のMH処理葉に対する摂食選択性は認められなかつた。

第 4 表

区 別	I		II		III		IV	
	虫数	加害面積	虫数	加害面積	虫数	加害面積	虫数	加害面積
		mm ²		mm ²		mm ²		mm ²
MH 2.0% 20cc 全面撒布	16	115.0	12	115.0	8	58.5	19	140.5
MH 0.5% 20cc 全面撒布	16	81.5	11	36.5	10	43.0	15	48.0
完全摘芽	11	32.5	10	44.0	17	59.0	15	45.5
7日毎摘芽	15	41.0	22	231.5	20	67.0	7	21.5

あ と が き

貯蔵中のMH処理葉タバコはチャマダラメイガの加害を増加することが証明された。現在MH散布は黄

色種耕作法の必須行事として取上げられ、在来種にまで使用されようとしている。しかるにMH利用の普及に伴なつて虫害相も新段階に入った。実際例および実験の結果は今後の虫害防除への警告であると信ずる。